

# 「世界一の只見線に」

新潟・福島豪雨で被災したJR只見線は1日、全線再開から2年を迎える。只見町内外の小中学生有志が主催する「只見線子ども会議」は、只見線の利活用促進に向け、さまざまな活動を展開してきた。節目を契機に、メンバーは「みんなが協力して、さらに只見線を応援していきたい」と決意を新たにしている。



鉄道模型「リゾートしらかみ樺(ぶな)編成」を前にする杏さん(左)と淳祐さん(右)。「世界一応援される只見線に」と意気込む

田杏さん。「国内外に魅力を発信して、世界一応援される只見線にしたい」と意欲を燃やしている。(富山和明)

## 問伐材活用し 名刺入れや皿

JR只見線の全線再開通2年に合わせ、金山町観光物産協会は1日、新しい土産品を発売する。全線での運行再開に伴い、線路周辺で出た問伐材を活用し、金山、三島両町の木工職人が手作業で名刺入れと皿に加工、製品化した。名刺入れは6500円、皿(直径約20センチ)は6千円。金山町のJR会津川口駅にある町観光情報センターで購入できる。問い合わせは同協会(電話0241・42・7211)へ。

## 子ども会議 光るアイデア

### 全線再開通から2年

子ども会議は昨秋の発足以降、JR只見線の待合室でのクリスマス飾り、キャンドルを使った列車の出入り、車内での七夕飾りなど、自分たちのアイデアを次々に形にできた。メンバーの角田杏さん(只見中2年)は「簡単にできることから取り組んでいる。表現が難しくそうないても、計画を工夫しながら挑戦していきたい」と意気込む。目標の一つに掲げるのが豪華列車「リゾートしらかみ」の運行実現だ。署名活動をしたり、誘致の露店を盛り上げようと、親交のある桐蔭学園(神奈川県)を目指すことができた。角



只見線の問伐材を活用して作られた名刺入れ

只見線の1キロ当たり1日平均乗客数 JR東日本によると、会津川口ー只見間で2023年度が103人。新潟・福島豪雨で被災する前の10年度は49人だったため、倍増した形だ。通学などの日常的な利用に戻ったことに加え、各種JR事業が奏功。「絶景の秘境路線」と知名度が高まり、観光客数を伸ばした。

▲10月1日 福島民友新聞掲載

「只見子ども会議」は、どんなメンバーが何を目的にしていますか。

---

---

---

昨秋発足後、「只見子ども会議」はどんなことをしましたか。

---

---

---

皆さんがメンバーの一員なら、どんなことをしたいと思いますか。

---

---

---

---

---

---